

校内組織と事務職員職務についての考察

小樽市立潮見台小学校

中山 好明

1. はじめに

小樽市支部では、市内であっても、校内組織や職員会議での提案の方法等さまざまであり校内組織がどうなっているのか、また直近の情勢変化に、個々の事務職員が校内組織や事務職員の職務についてどのような考えを持っているか、事務職員にアンケートを行ないました。

その結果をもとに話し合いを持ち、校内組織における事務職員のあり方等方向性を見いだす研修を進めようと思いましたが、個々の意見を述べるだけで拡がりを欠くものとなりました。

そこで、具体的に各学校で職務、特に他分掌との関わり・情報伝達の方法をどのように取り扱っているか交流することにより、何らかの方向性を導き出せないかを探ることにしました。まだまだ結果はできませんが、研修の途中経過をまとめたレポートとしました。

2. アンケート内容とその結果

小樽市支部 会員27校中23校から回答をうけました。

主なアンケート内容とそのおおまかな結果は次の通りです。

・事務職員が所属している校務分掌の名称と人数

ほとんどが、事務という名称で、人数も1～2名でした。

・その分掌が属しているチーム、グループ名は
(チームささえ) (支え・つなげるグループ)
(ささえ) (事務部) (事務管理部) (管理事務部) (企画運営グループ) (学校支援) (総務・管理部) (庶務部) (連携部) (総務部) (地域と

の連携、教育環境の活用)

・校務分掌の内容

給与旅費・福利厚生・予算・施設設備・学籍等 ほぼすべての学校で内容が合致し、特出するものはありませんでした。

・事務職員の職員会議での提案方法

事務職員単独以外では、グループ提案が4校ありました。

・年度末反省会議について

無い学校が8校あり、それらの学校では学校評価・自己評価等で対応していました。

・最近、職務に変化を感じるか

変化については、どちらともいえないという回答が1番多かったです。

・校内組織、校務分掌についての意見

多くの会員より意見をいただきました。

(アンケート結果は、別冊資料にて)

3. アンケート結果からの考察と話し合い

校内組織は、学校経営を明確にするため呼称を考えてつけているところもありました。また規模の大きい学校ではグループ制となっている学校もあり、その中で職員会議の提案をグループとして提案する学校もみられ、この形態が小樽市内でどうなっていくか注視していきたいです。また、年度末反省は、学校評価・自己評価で行なっている学校が3分の1あり、従来の年度末と比べ、学校全体の反省となりうるのか、次年度の運営計画にどういかされるのか、それぞれの学校で試されることになるのではないか。という考察を行ないました。

現在の事務職員の職務については、多くは変化が無いと思っていますが、学校が変わる中で、事務職員の職務も変わるのではという意識があります。さらに、「事務をつかさどる」に職務変更されたことへの影響は、今後どのような形であらわれるかを考えながらも、まだ実感として無い状況です。

アンケート結果からの話し合いでは、より効率的な学校運営を目指すために事務職員としても一役を担わなければならないという意見、現在学校として支障をきたしていないのに、どう変える必要があるのかわからない。という意見が出されました。

しかし、話し合われた内容は、これ以上の拡がりはありませんでした。そこで事務職員から、情報の提供・他分掌との連携という観点に絞り、具体的にどのように各学校で行なわれているか交流することにより、事務職員としての分掌への位置付け、職務内容を見出せないか研修を深めることにしました。

4. 各学校の事務職員からの情報の提供・他分掌との連携具体例の交流

◎職員会議の提案文書についての交流

潮見台小学校で昨年事務職員が職員会議で提案（運営計画・予算配分・決算・施設設備要望）した文書を提示し、他の学校では、どのように提案しているか交流しました。ほとんどの学校で予算提示・決算は出されている状況でしたが、運営計画については、それぞれの学校事情があり、校務分掌についてのみ提案されている学校も多くありました。

◎校内配当予算での交流

市教委から配当されたものを直接配当している学校、前年度の実績を基に再配当している学校に分かれました。小学校では、教科担当者がいないので、教科部会が要望をまとめ執行にいかせれば良いという意見が多かったです。

◎保護者・職員への情報提供についての交流

職員については、校務用パソコンのグループセッション（ソフト名）を利用している学校多かったです。

保護者向けに学校としての情報を取り扱う分掌が必要で、そこに事務職員も係わる必要があるのではという問いかけには、事務職員が情

報を提供する場合、事務便りという手段もあるので特に必要とは思わないという意見も出されました。

◎旅費の執行計画について

研修旅費執行は、研修係・管理職との連携が必要となるが、ほとんど計画通りには進んでいない状況が見られました。年度途中に研修案内がきて、旅行命令が出るので計画をたてるのに無理がある。という状況の学校がほとんどでした。

◎共同事務室について、それぞれのイメージを交流

学校にいてこそ事務職員、共同事務室の導入に反対の声も多かったです。市教委が導入するとなれば、自分たちの意見を反映していかなければならない。考えをまとめておく必要性も訴えられました。

◎校外学習助成事業についての交流

観劇とスキー授業交通費等の補助という学校が多いが、スキーボランティア料に充当し執行に工夫をこらしている学校もありました。また、スキー交通手段による交通費のシミュレーションの情報提供を行い、職員に保護者負担軽減を意識付けた学校もありました。

◎年度末反省・学校評価等についての交流

旅費の執行方法について話し合った学校、新しいプリンター導入に向け提案する学校、校務用パソコンの利用について反省を出す学校が紹介されました。他分掌、他学校との連携にふれられている学校は無かったです。

◎学校間で出来る連携についての交流

私案を提示しましたが、説明に終わり、それについての話し合いは全く進みませんでした。

5. おわりに

アンケート結果を生かして、小樽市支部としての校内組織・校務分掌について一定の方向性を導き出せればと思いましたが、アンケートの

まとめ方も悪く、それぞれの学校の現状を十分に把握されるものになりませんでした。また、今後事務職員の職務になんらかの変化が求められるという意識はあるものの、その具体像がそれぞれうかばない状況でした。そこで、具体的な事例を交流することにより、何が校内組織で事務職員が求めていかなければならないもの、求められるものを模索することとしましたが、一定の道筋はつけられず、各学校の交流に終わっているのが現状です。予算執行・各分掌との連携においても、組織化が必要か否かについても意見が分かれています。この研修により、各自が職務を問い直す機会になり、今後小樽市支部として一定の方向付けができることを期待します。